

第33回京都府医療対策協議会開催概要

- 1 日 時 令和2年8月31日(月) 14時～15時
- 2 場 所 オンライン会議により実施
- 3 出席者 京都府医療対策協議会構成員 16名
- 4 概 要 以下のとおり

【 1 協議事項 】

専門研修プログラムについて

[意見質疑]

- 臨床研究医コースは、追加で定員をもらえるのはありがたいが、論文の要件等でハードルが非常に高く希望者は少ないと思う。
- 内科は中心となる科だが、連携プログラムを埋めない限り、京都府の内科の枠がどんどん減っていくことを懸念している。
- 今年初めて内科基幹施設に集まっていたき、特に連携プログラムをどう分担していくか議論を続けている。
- 内科医が少なく特に厳しい中で、コロナ対応等もあり現場は疲弊している。地域医療を守り維持するためにも、内科医確保は最重要課題である。
- 地域貢献率を全国一律で算定することには無理がある。府の指摘通り、府内での医師少数区域や医師少数スポットも考慮しないと医師の地域偏在は解消しない。国に対してもしっかりと伝えてほしい。
- 総合診療科を目指す医師が少なく、一定の診療科に負担がかかる傾向にあるため、内科を中心とした専攻医が増加することを期待している。自治医大生や地域枠医師のためにも、サブスペシャリティ領域にスムーズに移行できるよう早急に道筋をつけてほしい、

【 2 報告事項 】

・京都府保健医療計画の中間見直しについて

[意見質疑]

- 中間見直しのため大きく変更するつもりはないが、3年間の議論を踏まえ、周産期の体制や医師確保計画、新型コロナの関係等を盛り込んでいきたい。
- 医師確保計画において、へき地医療や救急医療等の政策医療を担うための対策を必要とする地域を医師少数スポットとして定めたので、へき地診療所やへき地診療所に医師を派遣している医療機関のある地域に自治医大卒医師や地域枠医師を配置すること等について、保健医療計画にも組み込んでいきたいと考えている。